shindaiwa

取扱説明書

防音型高圧洗浄機

JE1013M-C

空冷4サイクル・OHVガソリンエンジン

目　　次	頁
1．安全上の注意	2
2．仕様	4
3．用途	4
4．各部の名称	5
5．装備機能と操作	7
5-1．アンローダーバルブ	7
5-2．エア抜きバルブ	7
5-3．噴射ガン	8
5-4．オイルセンサーとオイル警告灯	9
6．始業前点検	10
6-1．燃料の点検	10
6-2．オイルの点検	10
6-3．燃料・オイルもれの点検	12
7．運転方法	13
7-1．運転準備	13
7-2．始動	16
7-3．停止	18
8．各種作業時の本機操作	19
8-1．洗浄・剥離作業	20
8-2．高所揚水作業	21
9．点検・整備	22
10．長期保管	27
11．故障時の対応	28

⚠注 意 ： 安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

はじめに

このたびは、新ダイワの防音型高圧洗浄機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。本機の取り扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。

- 本機の取り扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取り扱いができる人が行ってください。

- 本機を貸し出す時は、必ず取扱説明書を添付してください。

- 取扱説明書は、いつでもご覧いただけるように大切に保管してください。

■この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

危険：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。
注意：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合、および物的損害が発生する可能性がある場合。
<注意>: 本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。

- 『注意』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

1. 安全上の注意

◆ 危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれています。
  室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

⚠ 注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けないでください。

⚠ 注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中で使用したりしないでください。
- 運転中は、スパークプラグ・高圧線には触れないでください。

⚠ 注意：火災

- 本機は、燃料としてガソリンを使用しています。
  燃料の点検や給油・抜取り、燃料ストレーナーの清掃など、燃料を扱うときは必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。
  また、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。
- 燃料もれがある場合は、絶対に使用せず、必ず修理してください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となります。
  引火性のあるもの（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすいものは、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から1m以上離し、水平な場所で運転してください。
- 保管用カバーなどをかけるときは、本機が冷えてから行ってください。

⚠ 注意：やけど

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
- 運転中にエンジンのオイルゲージやポンプのオイルキャップを開けると、高温のオイルが吹き出します。
  エンジンオイルやポンプオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

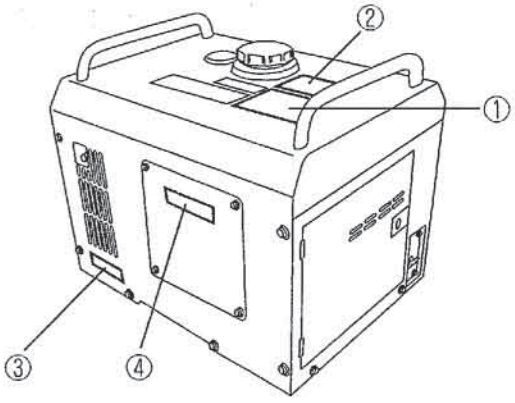
⚠ 注意：けが

- 運転中に本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。また、車輪付きのものは必ず車輪止めをしてください。
- 吐水ホース内は高圧となります。補強層が露出するような深い傷のついた吐水ホースは使用しないでください。また、油・薬品や高熱・鋭利なものに触れさせないでください。
- 吐水ホースおよび噴射ガンは確実に接続してください。
- 高圧水で吹き飛ばされた泥や小石がはね返ってくることがあります。作業時には、保護めがねなどの保護具を着用してください。
- 噴射ガンのレバーが噴射『開』になっていると、エンジンが始動し、エアが抜けると同時に高圧水が噴射します。エンジンを始動するときは、必ず噴射ガンのレバーを噴射『閉』にしてください。
- 噴射ガンを人や動物に向けないでください。
- 噴射の反動がありますので、足元を安定させ、噴射ガンは前後のグリップを両手でしっかり持って、作業を行ってください。
- 一人で圧力調整を行うときは､噴射ガンを片手で持つことになります。一旦噴射を止め、数回に分けて少しずつ調整してください。
- 揚水作業等で吐水ホースや噴射ガンを取りはずすときは、必ずエンジンを停止してください。運転中は圧力計がゼロを指していても、吐水ホース内は高圧になっています。
- 高所から噴射ガンや吐水ホースが落下すると危険です。
  建築・土木工事の足場など、高所で噴射・揚水作業を行うときは、足場鋼管などに吐水ホースをしっかり固定してください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品を取りはずしたりして使用しないでください。

■警告ラベル貼付位置

警告ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼りかえてください。ラベルの注文は（ ）内の番号で注文してください。

①排気ガス中毒（品番１９４０２－００１７４）
②火災（品番１９４０２－００１２７）
③やけど（品番１９４０２－００１１２）
④高電圧（品番１９４０２－００１４０）



2. 仕様

モデル		JE1013M-C
ポンプ	名称	MW3SF28G18
	圧力(MPa{kgf/cm²})	9.8{100}
	吐出量(L/min)	12
	回転速度(min⁻¹{rpm})	3600
	潤滑油の種類／容量(L)	ガソリンエンジン用(SD級以上)／0.3
	吸込液の種類／温度	清水／常温
エンジン	名称	GM132PN
	形式	空冷4サイクルOHVガソリンエンジン
	連続定格出力(kW/min⁻¹{PS/rpm})	2.1／3600{2.8／3600}
	排気量(L)	0.126
	燃料の種類	自動車用無鉛ガソリン
	潤滑油の種類／容量(L)	ガソリンエンジン用(SD級以上)／0.6
	始動方式	リコイルスターター式
装備	メーター	圧力計
	調圧	アンローダーバルブ
	エア抜き	自動エア抜きバルブ
	自動停止	オイルセンサー(警告ランプ付)
燃料タンク容量(L)		5.0
連続定格運転時間(時間)		3.5
外形寸法 L x W x H(mm)		508x412x449
乾燥質量(kg)		41
付属品	吸水ストレーナー	円盤形(#30)
	吸水ホース	1/2"x3m
	余水ホース	3/8"x3m
	吐水ホース	3/8"x30m(両端カプラー付)
	噴射ガン	フラットノズル1549(カプラー付)

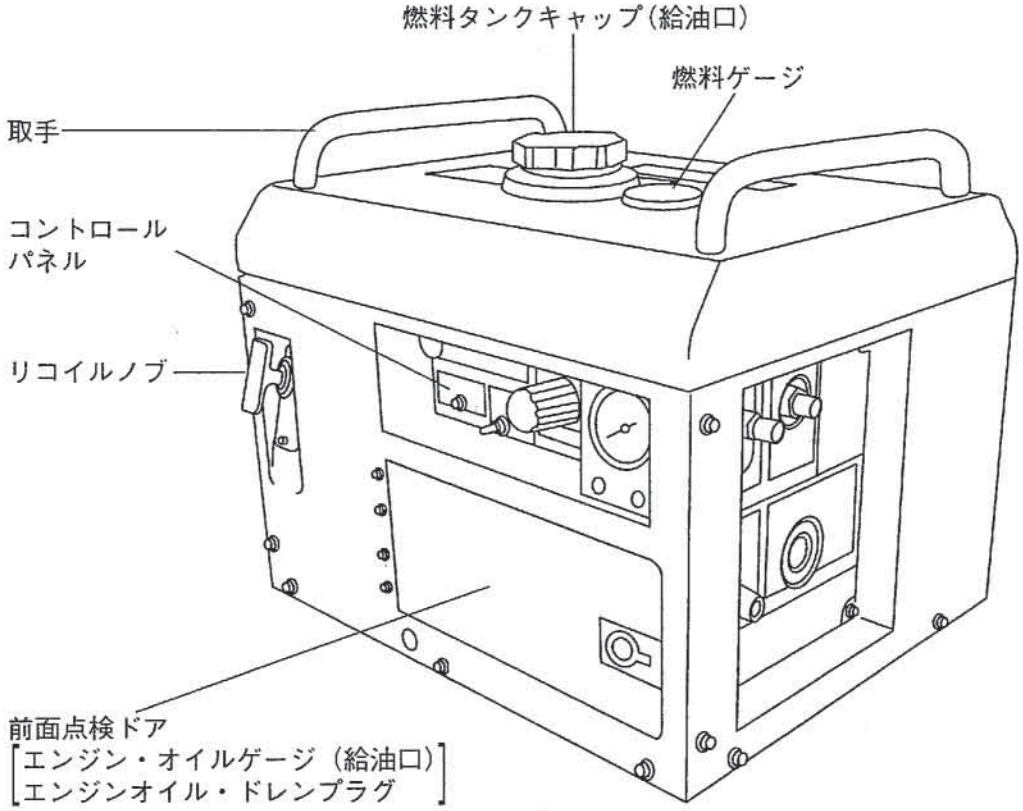
3. 用途

- 建物の外壁・スレート屋根など再塗装前の洗浄・下地処理
- 塗料の剥離、木材の皮剥ぎ、船底のフジツボ落し
- ビルの外壁・受水槽・高架水槽・下水管などの洗浄
- 土木・建設現場での矢板などの洗浄や高所揚水
- 石材、ガードレール、プールなどの洗浄

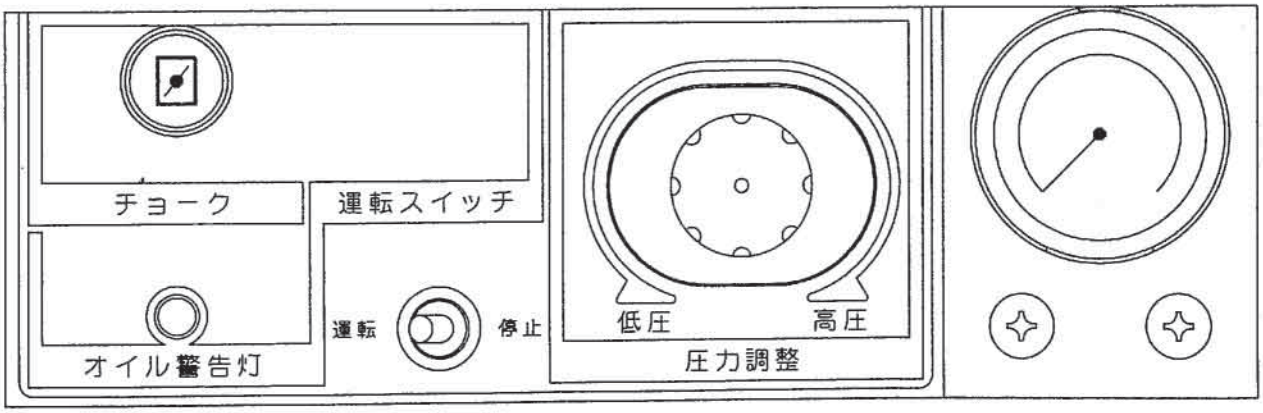
⚠ 注意：物的損害

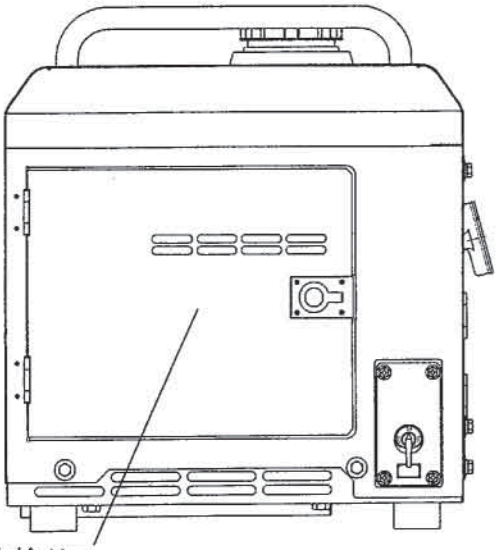
- 洗浄対象物によっては高圧水により破損することがあります。
  水圧の調整をして使用してください。

4. 各部の名称

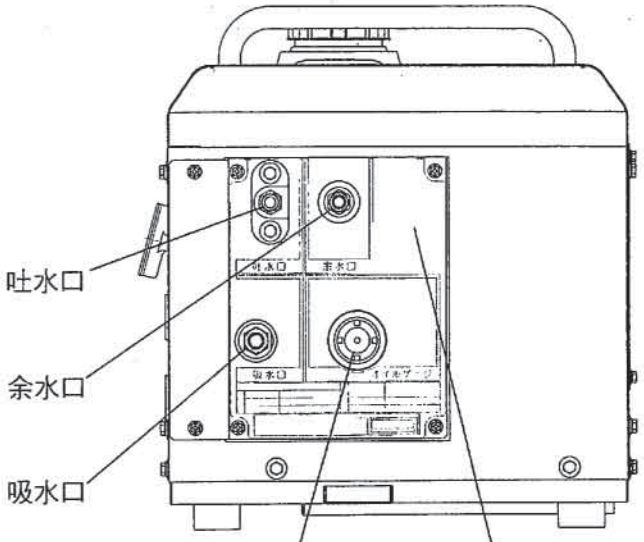


〈コントロールパネル〉

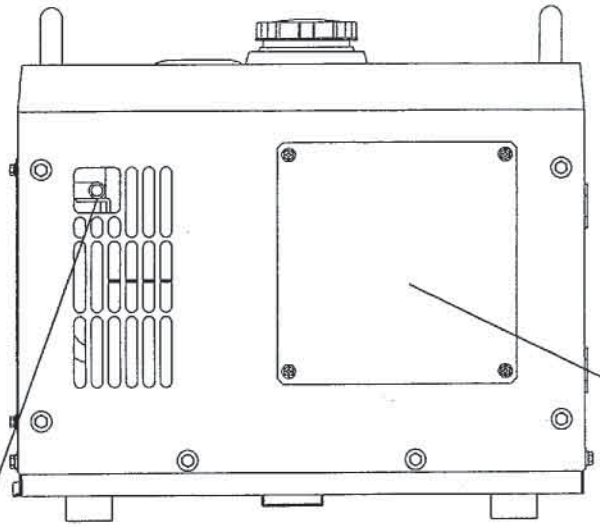




左側面点検ドア
[エアクリーナー]



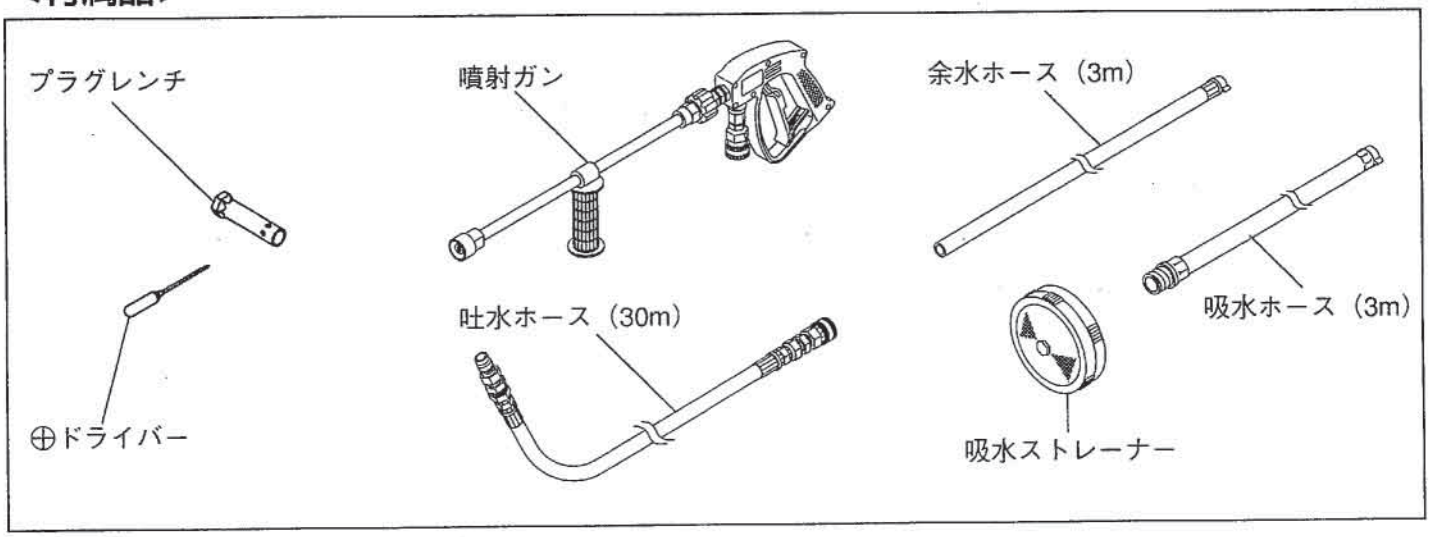
右側面点検パネル
[ポンプ・オイルキャップ（給油口）
ポンプオイル・ドレンプラグ]



後部点検パネル
[スパークプラグ
キャブレター]

マフラー
排気口

<付属品>



5. 装備機能と操作

5－1. アンローダーバルブ

(1)オート・アンロード（自動無負荷）機能

噴射を止めると、自動的に余水通路が全開になり、圧力ゼロの無負荷運転になります。省エネを目的とした機能です。

(2)リリーフ機能

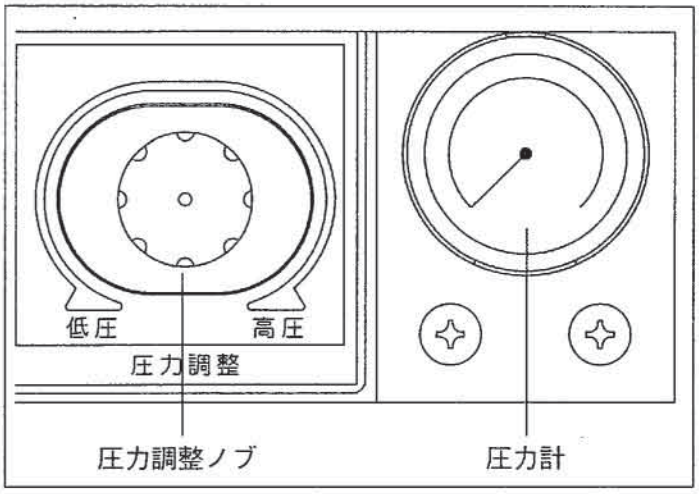
噴射中は、圧力が設定値を超えないよう吐水の一部を余水通路へ流し、圧力を保持します。安全を目的とした機能です。

(3)圧力調整機能と操作方法

圧力は、2.9～9.8MPa{30～100kgf/cm²}の範囲で調整することができます。

■圧力調整方法

圧力調整ノブを右へ回すと圧力が高くなり、左へ回すと低くなります。



5－2. エア抜きバルブ

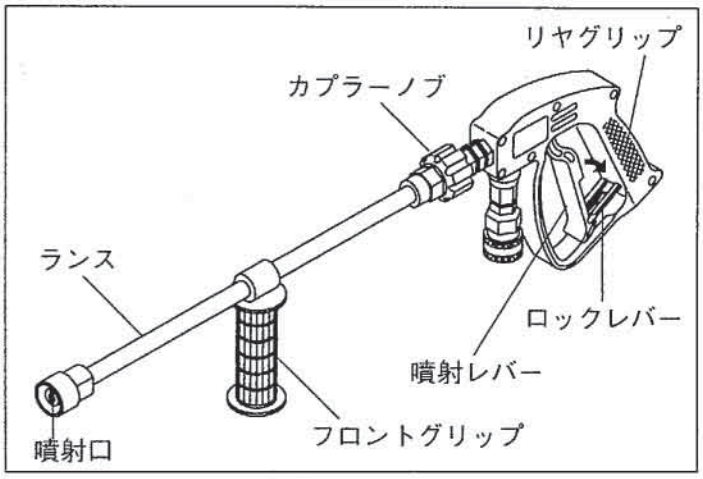
(1)オート・エア抜き機能

エンジンを始動すると自動的にポンプ内のエアが抜け、余水ホースから水が出てきます。エア抜き操作の必要はありませんが、エンジン始動時には、必ずこの確認を行ってください。

5－3．噴射ガン

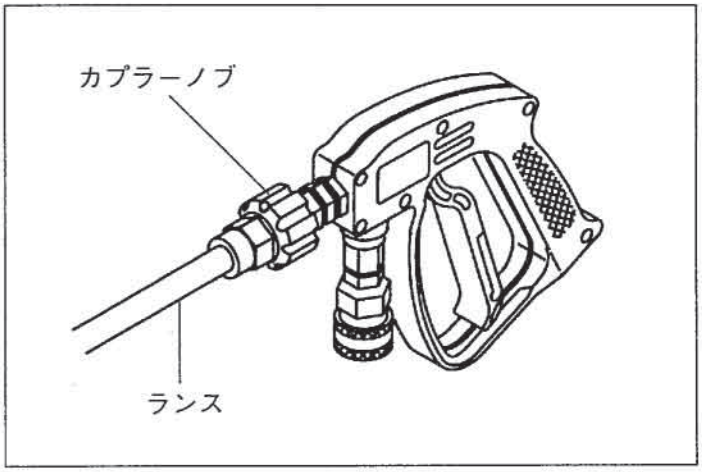
(1)噴射レバーの操作方法

噴射レバーを引くと噴射口（フラットノズル）から高圧水（１５°扇形）が噴射し、放すと止まります。また、噴射レバー裏のロックレバーを手で倒すと、噴射『閉』で噴射レバーを固定できます。



(2)ランスの接続

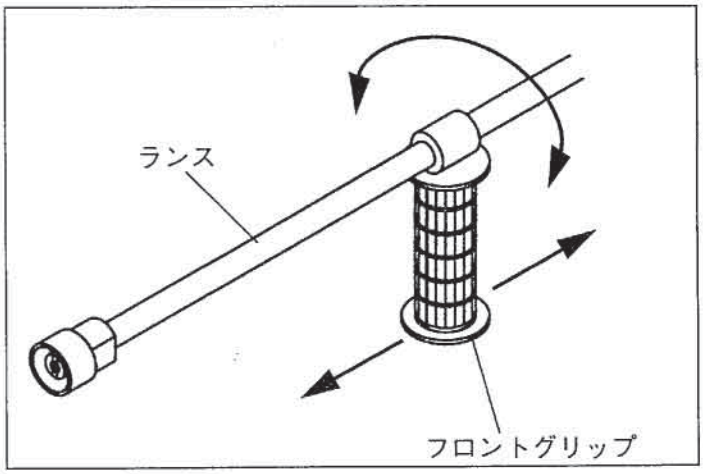
ランス接続は、カプラーノブを手で回すことで、ランス着脱が行えるクイックカプラー式になっています。噴射していないときは、ランスは自由に回転しますので、フラットノズルの向きを自由に変えることができます。



(3)フロントグリップの操作方法

フロントグリップを左に回してゆるめると、回転と前後の移動ができます。

また、フラットノズルの向きの調整でランスを回転させるには、このグリップを持って行います。



5－4．オイルセンサーとオイル警告灯

⚠ 注意：やけど

- エンジンの自動停止により、オイル量の点検を行うときは、エンジンが冷えてから行ってください。

⚠ 注意：けが

- オイルセンサー作動確認でエンジンを再始動するときは、必ず噴射ガンのレバーを噴射『閉』にしてください。

(1)エンジンの自動停止機能

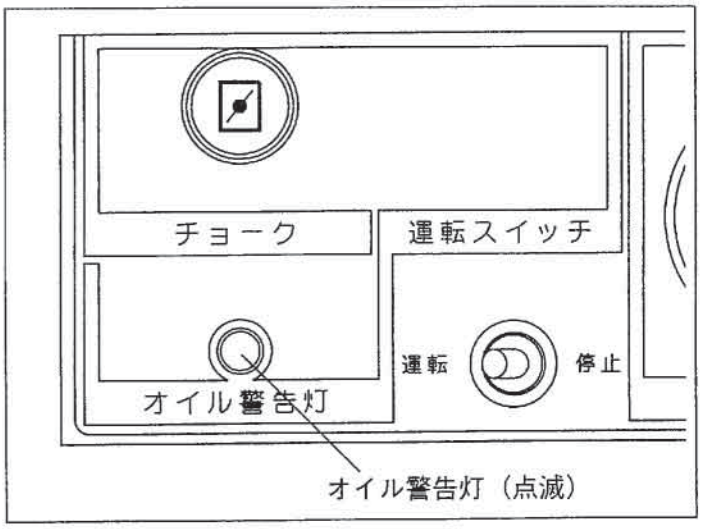
エンジンオイルが少なくなるとセンサーが作動し、オイル警告灯が点滅しながらエンジンが自動停止します。エンジンの焼付き防止を目的とした機能です。

<注意>

- オイルセンサーには、オイルの劣化を検知する機能はありません。
  『9．点検・整備（1）エンジンオイルの交換（P23)』に従って、エンジンオイルは定期的に交換してください。

(2)オイルセンサー作動の確認方法

エンジンが自動停止すると、オイル警告灯も消灯します。もう一度エンジンを始動し、次に自動停止するときに、オイル警告灯が点滅するか確認してください。



6．始業前点検

⚠ 注意：火災・やけど・けが

- 点検時は必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。

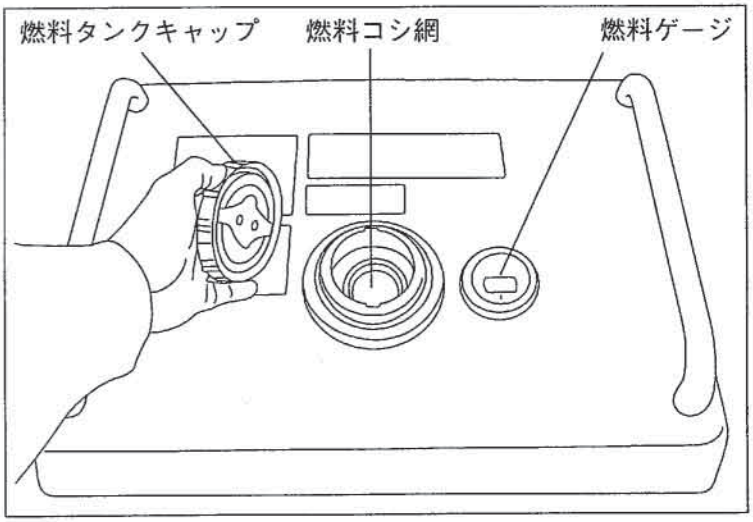
6－1．燃料の点検

⚠ 注意：火災

- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。

燃料ゲージでタンク内燃料の量を点検し、不足しているときは給油してください。

<注意>



- 2ケ月以上使用しなかった燃料は、新しい燃料に入れ換えてください。
- 燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用してください。
- 給油時は燃料コックを閉じ、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。
- 燃料タンク容量は5Lですが、口元いっぱいには入れず少し控え目に入れてください。

6－2．オイルの点検

オイルゲージでオイル量を点検してください。

<注意>

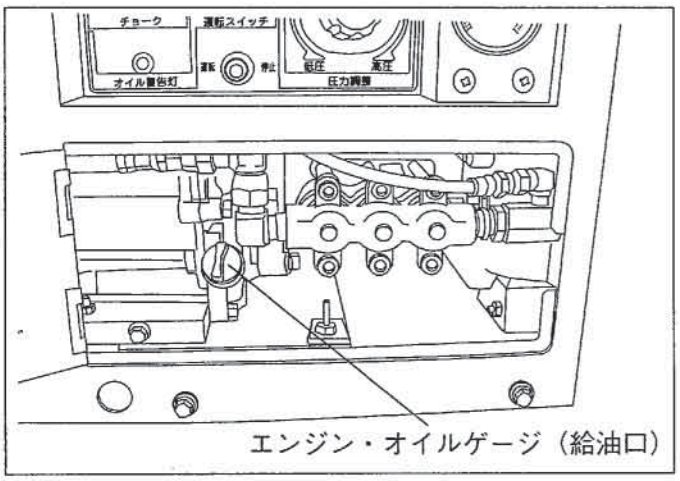
- 本機が傾いた状態では、オイル量を正確に確認できません。本機を水平にして、点検してください。
- エンジンオイルが劣化していたり、ポンプオイルに水が混入して白濁しているときは、交換が必要です。
  『9．点検・整備（1）エンジンオイルの交換、(2) ポンプオイルの交換（P23）』に従って、オイルを交換してください。

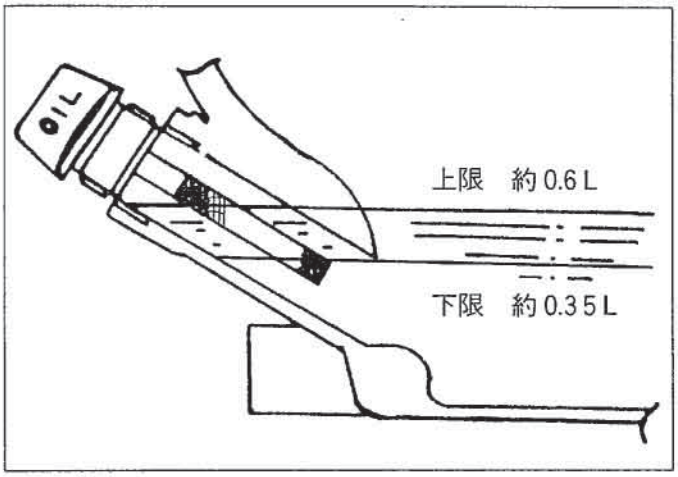
(1)エンジンオイル

オイルゲージを給油口に当てて（ねじ込まないで）、油面を確認してください。
上限レベルより少なくなっているときは、給油してください。

<注意>

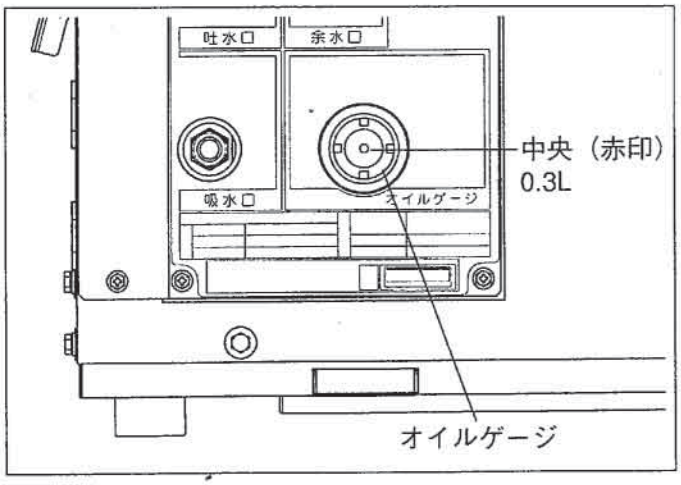
- オイル量が下限レベル付近で使用すると、本機の傾きによってはオイルセンサーが作動せず、エンジンが焼き付くことがあります。

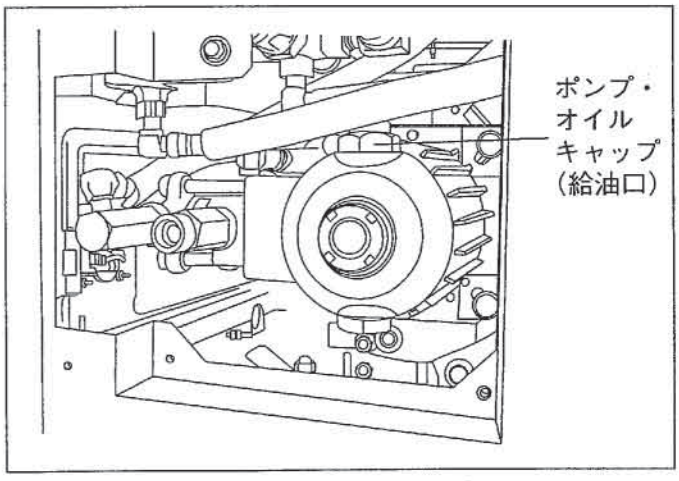




(2)ポンプオイル

オイルゲージ窓を見て、油面を確認してください。中央レベル（赤印）より少なくなっているときは給油してください。

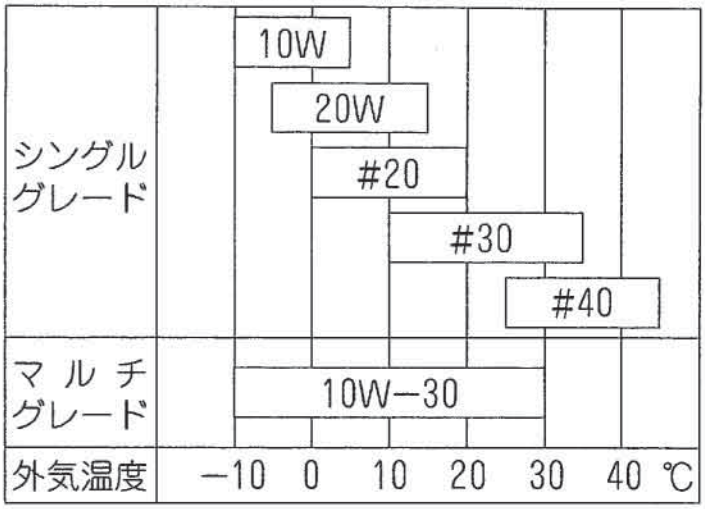




⑶エンジンオイル・ポンプオイルの選定

ＳＤ級以上のガソリンエンジン用オイルで、外気温度に応じて適正な粘度（表を参照）のものを使用してください。

オイル粘度の選定基準



<注意>

- マルチグレードを使用した場合、外気温度が高いとオイルの消費量が増えますので、オイルの残量に注意してください。

6－3．燃料・オイルもれの点検

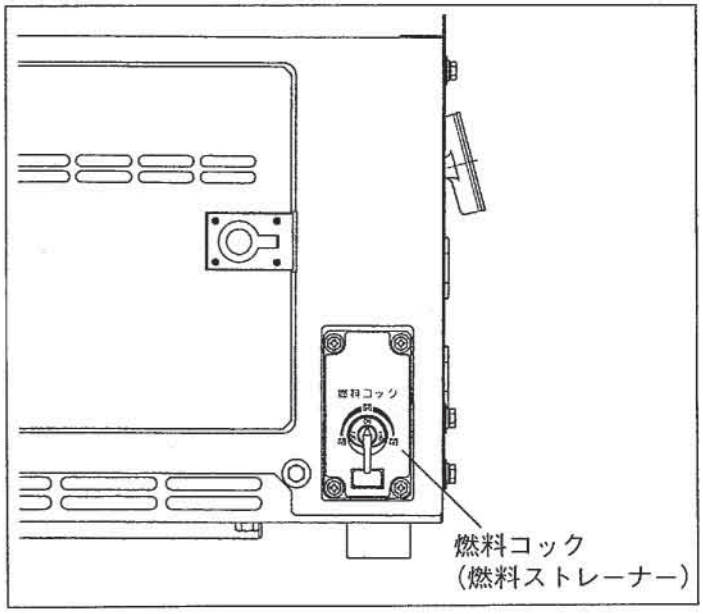
⚠ 注意：火災

- 燃料もれがある場合は、絶対に使用せず修理してください。

燃料配管・燃料ストレーナーなどからの燃料もれとオイルもれがないか点検してください。

<注意>

- 燃料もれの点検は燃料コックを開いて行い、点検後は必ず閉じてください。



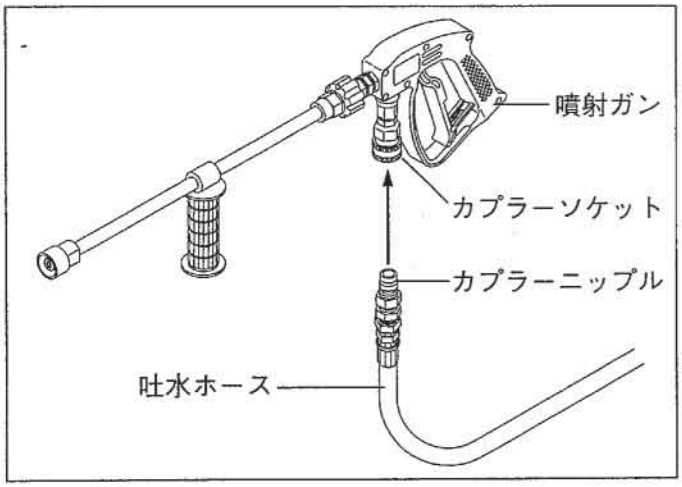
7. 運転方法

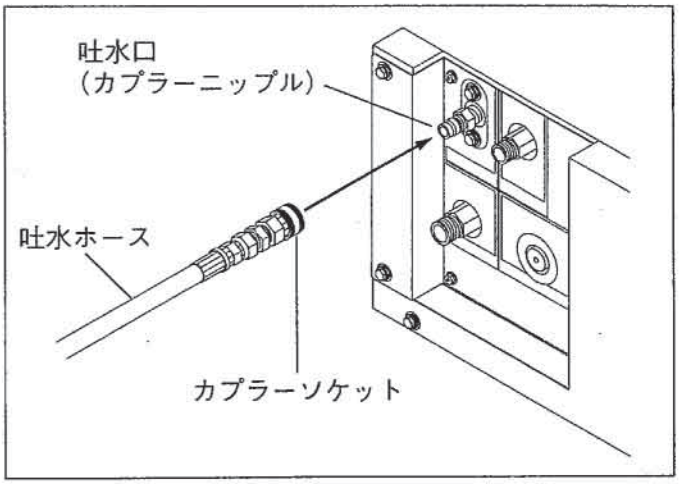
7－1. 運転準備

(1)噴射ガン・吐水ホースの接続

> ⚠ 注意：けが
>
> ● 補強層が露出するような深い傷のついた吐水ホースは使用しないでください。
>
> ● 噴射ガン・吐水ホースは確実に接続してください。

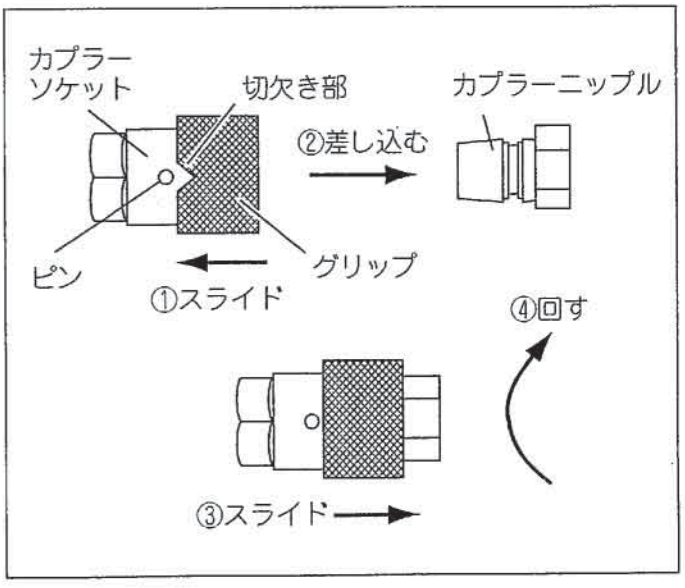
噴射ガンと吐水ホース、吐水ホースと本機吐水口の各接続は、ワンタッチカプラー式になっています。





このカプラーは、安全機構として、ピンと切欠き部の位置を一致させないと、カプラーソケットのグリップがスライドしない構造になっていますので、次の手順に従って取り付けてください。

1. カプラーソケットのグリップを回してピンと切欠き部を合わせます。
2. グリップを引いてスライドさせます。
3. そのまま、カプラーソケットをカプラーニップルに差し込みます。



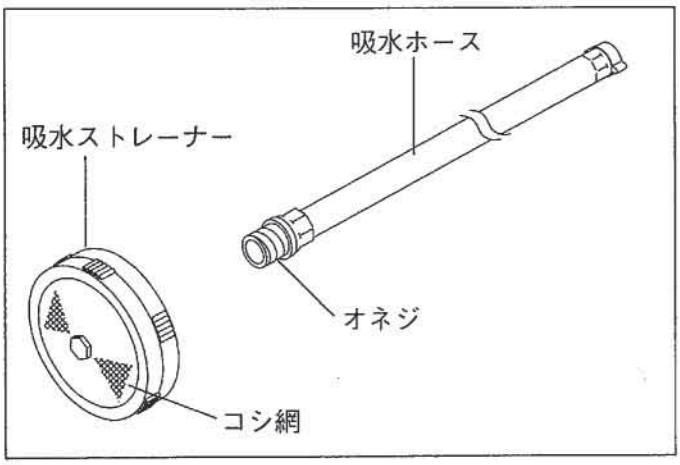
④ グリップを押してスライドさせます。

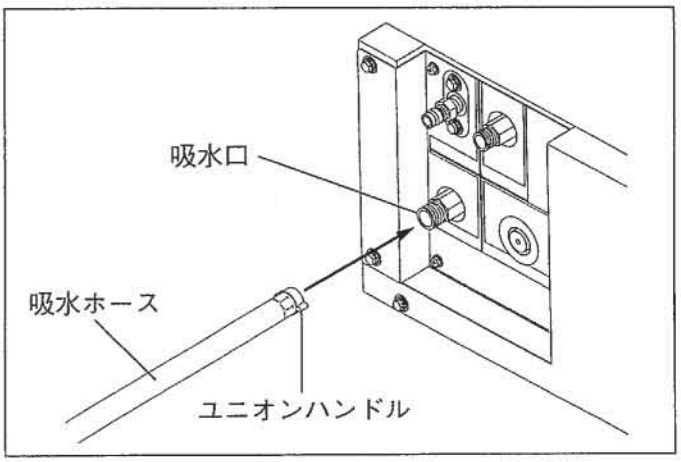
⑤ 抜け防止のため、グリップを回して、ピンと切欠き部をずらします。

(2)吸水ストレーナー・吸水ホースの接続

<注意>

- コシ網が破れた吸水ストレーナーを使用すると、ゴミが侵入し『圧力が上がらない』などの原因となるだけでなく、ポンプ・バルブ類の寿命を短くします。
- コシ網が目づまりした吸水ストレーナーを使用すると、『吸水しない』『圧力が上がらない』などの原因となるだけでなく、ポンプ内部にエアが発生しポンプの寿命を短くします。
- 吸水ホースが破れていたり、接続部がゆるんでいたりすると、ポンプはエアを吸い込み『吸水しない』『圧力が上がらない』などの原因となります。

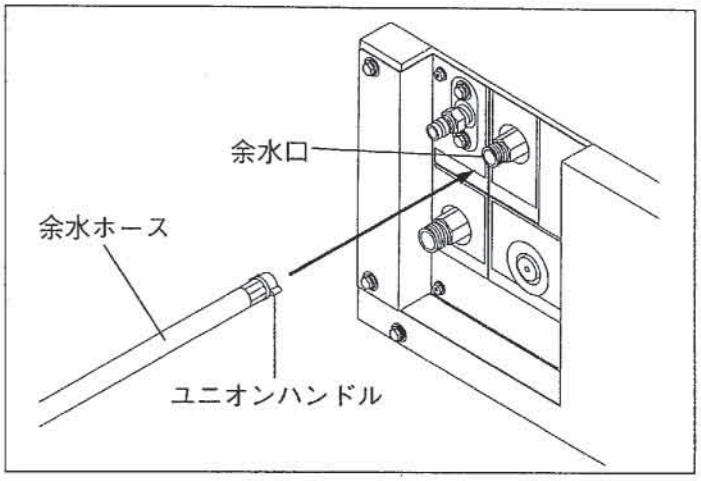




① 吸水ホースのオネジ側に、吸水ストレーナーを手で締めつけます。

② 本機の吸水口に、吸水ホースのユニオンハンドルを手で回して接続します。

(3)余水ホースの接続



1 本機の余水口に、余水ホースのユニオンハンドルを手で回して接続します。

(4)水タンクの設置

1 吸水ホースが十分に届く位置に、水タンクを置きます。

<注意>

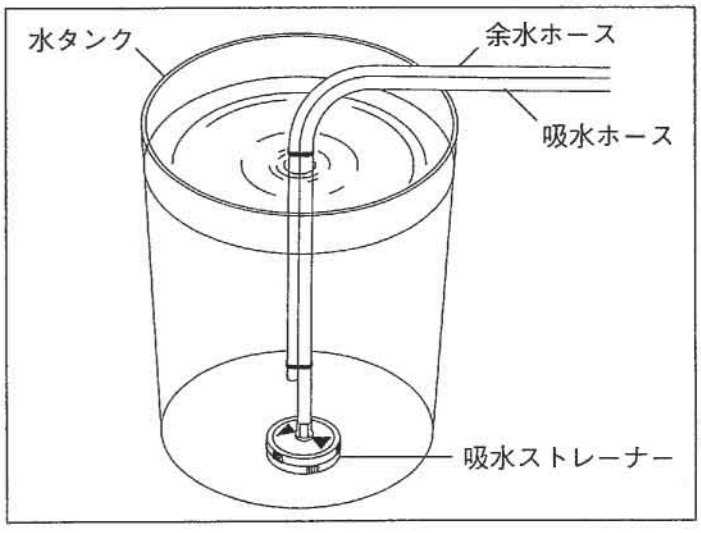
- 本機のマフラー排気方向は避けて、冷却吸気口をふさがないよう本機から少し離して設置してください。
- 吸込揚程（タンク水面から本機吸水口までの高さ）が0.5m以内となるよう設置してください。
  これを超えて使用すると、ポンプ内でエアが多く発生し寿命が低下します。

2 水タンクの中に、水道水などの清水を入れます。

<注意>

- 河川・池・工事用水などの泥・砂・ゴミを含んだ水を使用すると、吸水ストレーナーがすぐに目づまりを起こすだけでなく、ポンプ・バルブ類が故障する原因となります。

3 吸水・余水ホースを水タンクの中に入れます。



<注意>

- 吸水ホースは、ストレーナーからエアを吸わないよう水中に深く沈めてください。
- 余水ホースは、水タンクから飛び出さないよう、吸水ホースなどに縛り付けてください。

7－2．始動

危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれています。
  室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けないでください。

注意：火災

- マフラーや排気ガスなどは高温となります。
  引火性のあるもの（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすいものは、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から1m以上離し、水平な場所に設置してください。

注意：けが

- 運転中に本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。また、車輪付きのものは必ず車輪止めをしてください。
- 噴射ガンのレバーが噴射『開』になっていると、エンジンが始動し、エアが抜けると同時に高圧水が噴射します。
  エンジンを始動するときは、必ず噴射ガンのレバーを噴射『閉』にしてください。

<注意>

- ポンプが凍結した状態で始動すると、パッキン類が裂傷するだけでなく、バルブが凍結していた場合はポンプ内が異常高圧となり、ポンプが破損するおそれがあります。
  寒冷時には、運転スイッチを『停止』にしてリコイルノブを引き、通常時より回転が重くなっていないか確認してください。
- 空運転を1分以上続けると、ポンプが故障する原因となります。
  エンジン始動後10秒程度で自動的にエアが抜けますが、この『エア抜き運転』中は空運転の状態になっていますので、エアが抜けるまで本機から離れないでください。
  また、噴射ガンのレバーを引いて噴射『開』にすると、エアが抜けやすくなりますが、それでも1分以内でエアが抜けないときは、エンジンを停止させて、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申しつけてください。

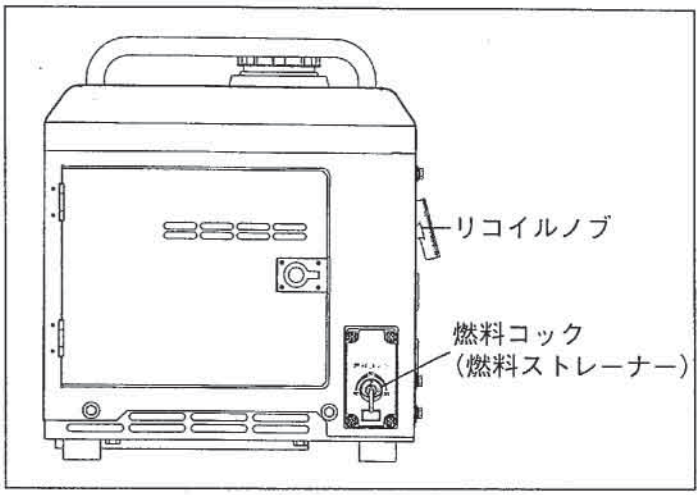
1. 噴射ガンのレバーを噴射『閉』にします。

2. 燃料コックを『開』にします。

3. チョークノブを引きます。

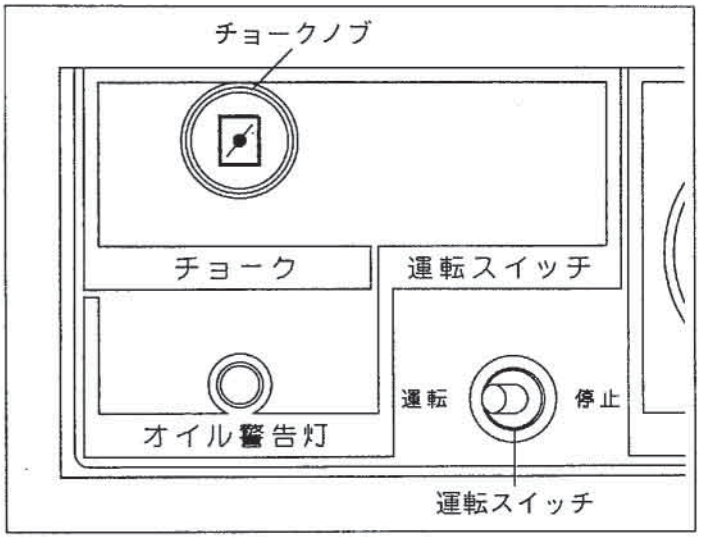
<注意>

- エンジンの暖機状態や外気温度に合わせて、チョークノブの引き具合を加減してください。



4. 運転スイッチを『運転』にします。

5. リコイルノブを重くなるところまでゆっくり引き、一度元にもどしてから一気に引きます。



<注意>

- リコイルノブは、いっぱいに引ききらないでください。
  また、引いた位置から手放さずに、ゆっくりもどしてください。

6. エンジン始動後、チョークノブをもどします。

<注意>

- 始動後、すぐにチョークノブを全部もどすとエンストすることがありますので、エンジンの調子にあわせて徐々にもどし、最後には必ず完全にもどしてください。

7. ポンプ内のエアが抜けて、余水ホースから水が出るのを確認します。

8. 約5分間、暖機運転をします。

7－3．停止

⚠ 注意：けが

- 吐水ホースや噴射ガンを取りはずすときは、必ずエンジンを停止し、噴射ガンのレバーを引いて吐水ホース内の圧力を抜いてください。

<注意>

- 空運転を1分以上続けると、ポンプが故障する原因となります。
  エンジン停止時の『水抜き運転』中は、空運転の状態になっていますので、水が抜けたらすぐにエンジンを停止させてください。
  運転スイッチを『停止』にしても、エンジンが止まらないときは、そのまま燃料コックを閉じてください。数分後に停止します。
  その場合は、本機をそのまま使用せずに、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申しつけてください。

[1] 噴射ガンのレバーを『閉』にし、約3分間、冷機運転をします。

[2] 運転スイッチを『停止』にします。

<注意>

- 作業終了時の停止は手順2の前に、次の『ポンプ内の水抜き運転』を行ってください。
  吸水ホースを水タンクから抜き出すと、10秒程度で余水ホースから水が出なくなりますので、すぐにエンジンを停止させます。

[3] エンジン停止後、燃料コックを『閉』にします。

[4] 噴射ガンのレバーを引いて、吐水ホース内の圧力を抜きます。

<注意>

- 凍結時期の作業終了時には、吐水ホースを取りはずし内部の水抜きを行ってください。

8. 各種作業時の本機操作

⚠ 注意：物的損害

- 洗浄対象物によっては高圧水により破損することがあります。水圧の調整をして使用してください。

⚠ 注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中で使用したりしないでください。
- 運転中、スパークプラグ・高圧線には触れないでください。

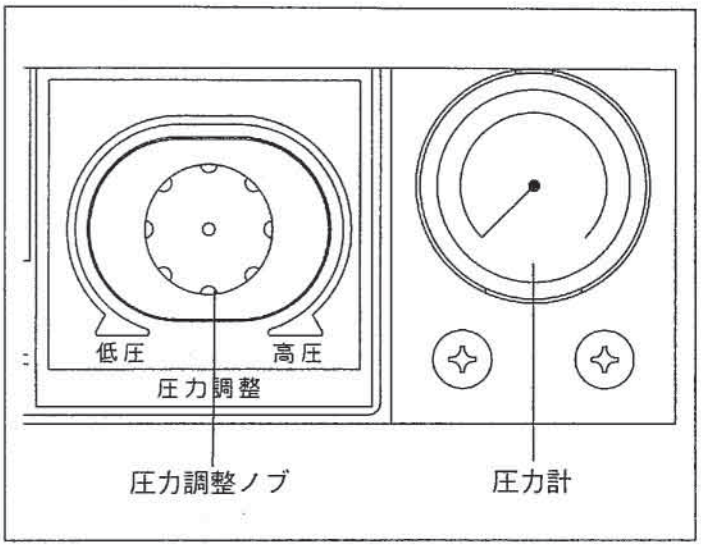
⚠ 注意：やけど

- 運転中、マフラー排気口付近は高温になっていますので、触れないでください。

⚠ 注意：けが

- 高圧水で吹き飛ばされた泥や小石がはね返ってくることがあります。作業時には、保護めがねなどの保護具を着用してください。
- 噴射ガンを人や動物に向けないでください。
- 噴射の反動がありますので、足元を安定させ、噴射ガンは前後のグリップを両手でしっかり持って、作業を行ってください。
- 一人で圧力調整を行うときは、噴射ガンを片手で持つことになります。一旦噴射を止め、数回に分けて少しずつ調整してください。
- 噴射ガンや吐水ホースが落下すると危険です。
  建築・土木工事の足場など、高所で噴射・揚水作業を行うときは、足場鋼管などに吐水ホースをしっかり固定してください。
- 吐水ホースは、油・薬品や高熱・鋭利なものに触れさせないでください。

8－1．洗浄・剥離作業



1. 噴射口を前方下向きにして噴射ガンを持ち、噴射させながら圧力計を見ます。

＜注意＞

- 噴射を止めているときは圧力ゼロの無負荷運転となっています。噴射状態でなければ、圧力の確認はできません。

2. 作業に適した圧力になっていないときは、噴射を止めます。

3. アンローダーバルブの圧力調整ノブを設定したい圧力の方に少し回します。

＜注意＞

- 調整ノブを右に回すと圧力が高くなり、左へ回すと低くなります。
  『5－1．アンローダーバルブ（P 7）』を参照してください。
- 圧力調整の下限は2.9 MPa {30 kgf/cm²} です。
  調整ノブを左へ回し続けるとネジ接続がはずれますので、この圧力より下げないでください。

4. 手順1～3を繰り返して少しずつ調整し、適した圧力に設定します。

＜注意＞

- 2人のときは、噴射と圧力調整を分担してください。

5. 噴射ガンのレバーを引いて作業を開始します。

8－2．高所揚水作業

> ⚠ 注意：けが
>
> ●吐水ホースや噴射ガンを取りはずすときは、必ずエンジンを停止し、噴射ガンのレバーを引いて吐水ホース内の圧力を抜いてください。

1. エンジンを停止させます。
2. 噴射ガンのレバーを引いて、吐水ホース内の圧力を抜きます。
3. 吐水ホースを本機から抜き取ります。
4. 噴射ガンを吐水ホースから取りはずします。
5. 吐水ホースを揚水場所まで運び、カプラーソケット側を下にして降ろします。
6. 吐水ホースが落下しないように、ひもなどで固定します。
7. 吐水ホースを本機に接続します。
8. 高所の方で揚水準備が完了したら、エンジンを始動させます。

＜注意＞

- 圧力計は、噴射ガン接続時に設定したときの値を示しません。
- 低い圧力に設定していたときは、余水ホースからも水が出ます。
  このときは、余水がゼロになるまで、アンローダーバルブの調整ノブを右へ回してください。

9. 揚水が終わり水を止めるときは、エンジンを停止させます。

9. 点検・整備

⚠ 注意：感電・けが

- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、冷えてから点検・整備を行ってください。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表に従って定期的に点検・整備を行ってください。

<注意>

- 始業前点検以外は、専門技術者が行ってください。
- 表中の●印はお求めの販売店か弊社営業所に申しつけてください。
- 交換部品は、必ず純正品を使用してください。

項　　目	始業ごと	25時間ごと	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	500時間ごと
各部の清掃・締付点検	○					
エンジンオイルの点検・給油	○					
エンジンオイルの交換／1回目		○				
エンジンオイルの交換／2回目以降			○			
ポンプオイルの点検・給油	○					
ポンプオイルの交換／1回目				○		
ポンプオイルの交換／2回目以降						○
燃料・オイルもれの点検	○					
吸水ストレーナーの点検・清掃	○					
吸水・吐水ホースの点検	○					
エアクリーナーの清掃		○				
燃料ストレーナーの清掃			○			
スパークプラグの清掃			○			
スパースプラグの調整					○	
吸排気弁スキマの点検・調整						●
吸排気弁座の点検・すり合わせ						●
燃焼室の清掃						●
燃料パイプの交換	3年（但し、必要に応じて交換）					

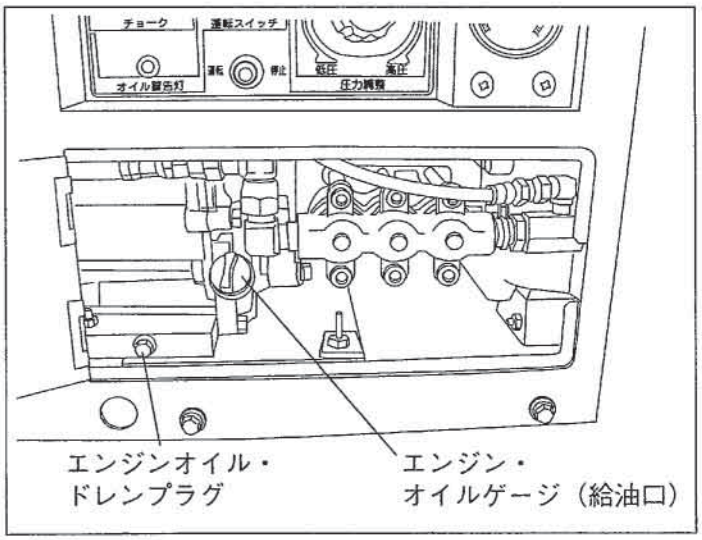
(1)エンジンオイルの交換

<注意>

●オイルは『6－2.オイルの点検（3）エンジンオイル・ポンプオイルの選定(P12)』に従って選定してください。

1回目	25時間目
2回目以降	50時間ごと

1. 前面の点検ドアを開けます。
2. オイルゲージをはずします。
3. ドレンプラグをはずして、オイルを抜きます。
4. ドレンプラグを締めつけます。
5. オイルを上限レベルまで入れます。(0.6L)
6. オイルゲージを締めつけます。



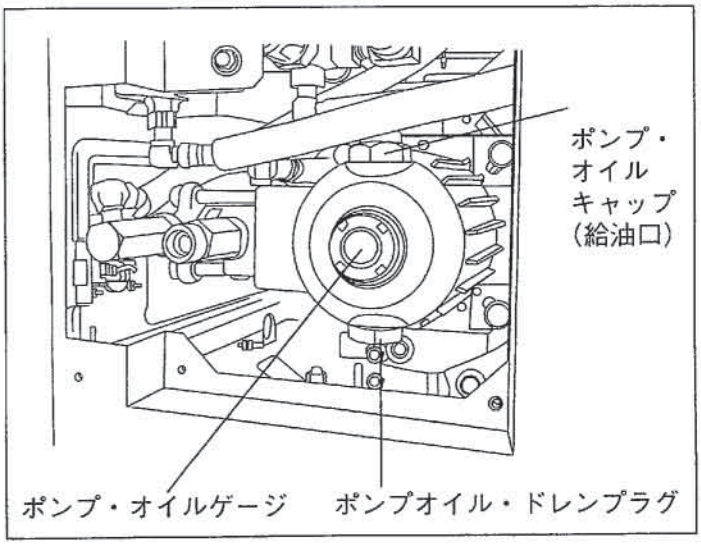
(2)ポンプオイルの交換

<注意>

●オイルは『6－2.オイルの点検（3）エンジンオイル・ポンプオイルの選定(P12)』に従って選定してください。

1回目	100時間目
2回目以降	500時間ごと

1. 右側面のホース接続パネルを取りはずします。
2. オイルキャップをはずします。
3. 前面の点検ドアを開けます。
4. ドレンプラグをはずして、オイルを抜きます。
5. ドレンプラグを締めつけます。
6. オイルをオイルゲージ窓の中央レベル(赤印)まで入れます。(0.3L)
7. オイルキャップを締めつけます。



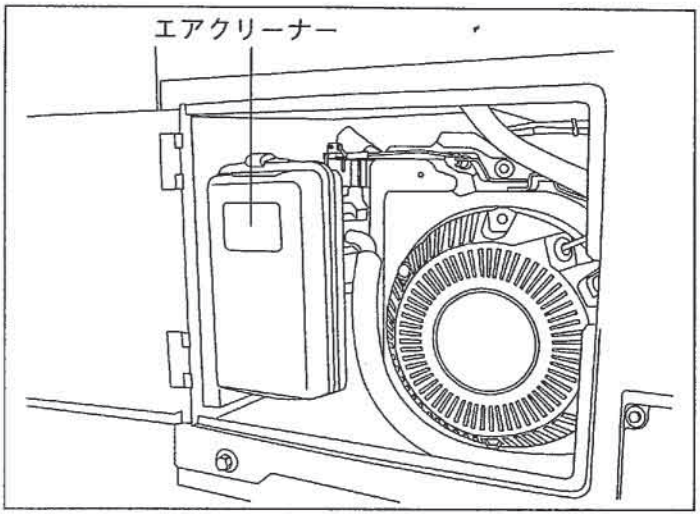
⑶エアクリーナーの清掃

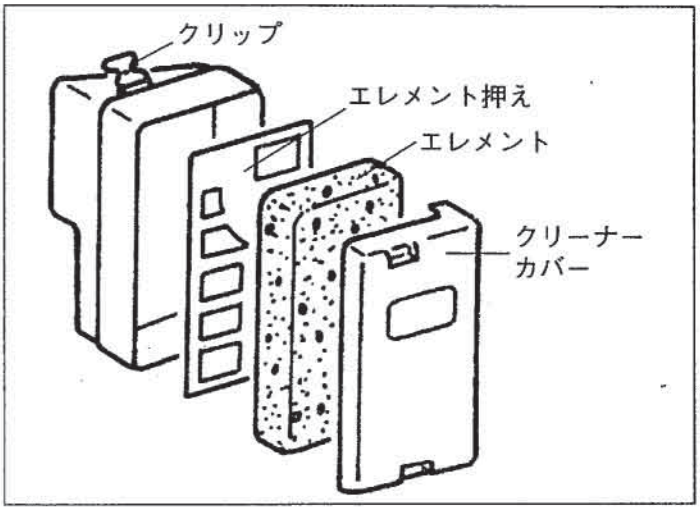
清掃	25時間ごと

<注意>

- 汚れがひどくなると、出力低下や始動不良などを起こす原因となります。ホコリの多い場所で使用したときは、早めに清掃してください。

1. 左側面の点検ドアを開けます。
2. 上下のクリップをはずし、クリーナーカバーを取ります。
3. エレメントを白灯油で洗浄後、よく絞ります。
4. 洗浄したエレメントをエンジンオイルに浸し、固く絞って取りつけます。

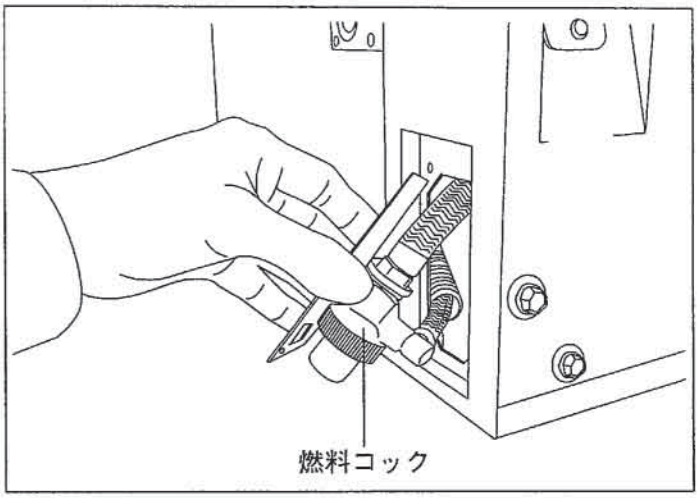


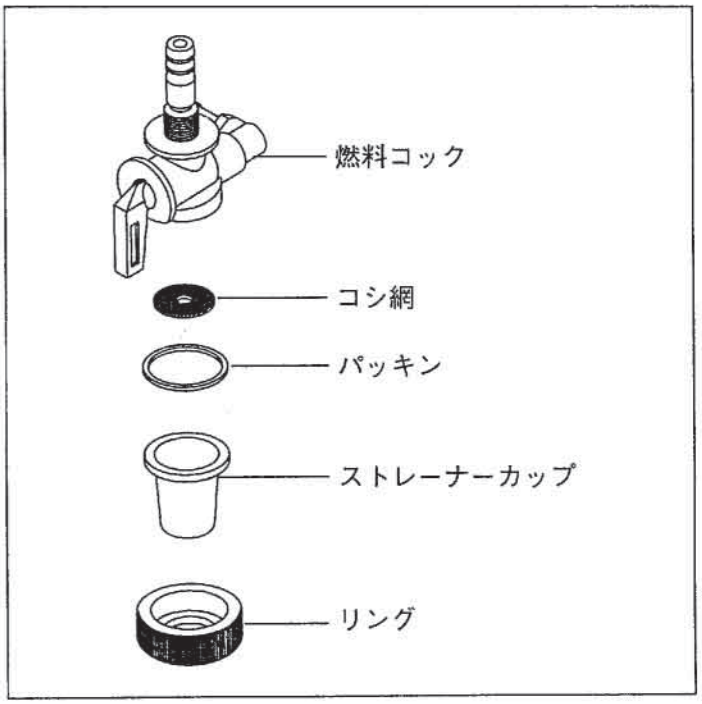


(4)燃料ストレーナーの清掃

清掃	50時間ごと

1. 燃料コックを『閉』にします。
2. 燃料コックパネルのボルト4本をはずします。
3. パネルごと燃料コック（燃料ストレーナー）を引き出します。
4. リングを左に回し、ストレーナーカップをはずします。
5. ストレーナーカップ内の水や沈殿物を捨て、コシ網に付着しているゴミを取り除きます。
6. パッキン面をきれいにふき取り、リングをしっかり締めつけます。
7. パネルを元の位置に取りつけます。





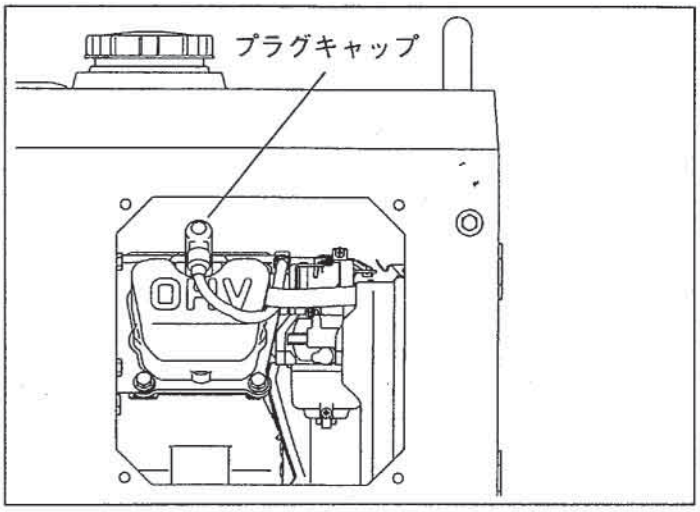
＜注意＞

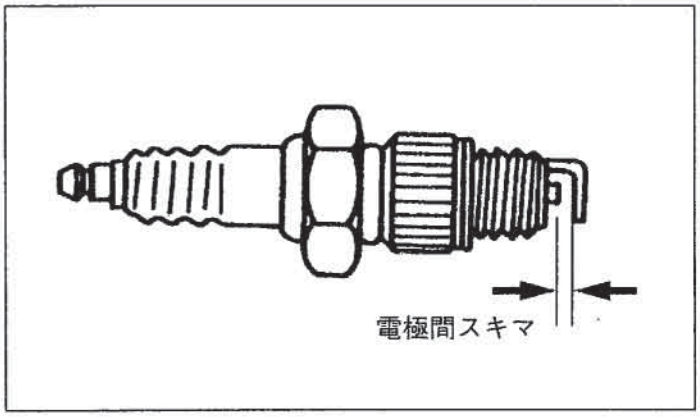
- 取りつけた後は、燃料コックを『開』にして燃料もれを点検してください。点検後は『閉』にしてください。

(5)スパークプラグの清掃と調整

清掃	50時間ごと
調整	200時間ごと

1. 後部の点検パネルのボルト4本をはずします。
2. プラグキャップとその下のゴムカバーを抜き取ります。
3. プラグレンチでスパークプラグをはずします。
4. 電極部とネジ部のカーボンを、プラグクリーナーかワイヤーブラシで落とします。
5. 電極間スキマを0.7mmに調整します。





<注意>

- プラグ交換時は、『NGK／BP6HS、又は相当品』を使用してください。

10. 長期保管

⚠ 注意：感電・けが

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：火災・やけど

- 整備を行うときは、絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、冷えてから整備を行ってください。

＜注意＞

- キャブレター内にガソリンを入れたまま長期間放置しますと、内部のジェットがつまり、始動不良や回転不調などを起こす原因となります。
- ポンプやホース内に水が残ったまま長期間放置しますと、凍結や内部腐食を起こす原因となります。

本機を 2 ケ月以上使用しないときは、次の手順で整備を行ってください。

1. 運転スイッチ『停止』でリコイルを引き、ポンプ内の水抜きができているか確認します。

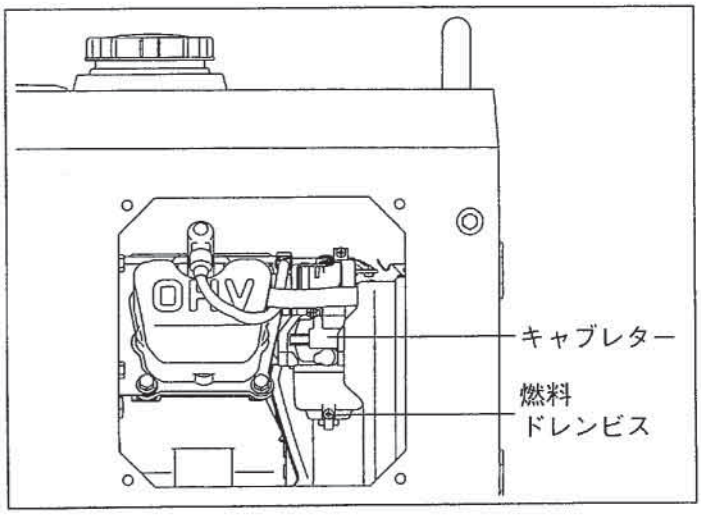
2. 『9．点検・整備（4）燃料ストレーナーの清掃（P25)』に従って、燃料ストレーナーのカップをはずします。

3. 燃料コックを『開』にして燃料タンク内の燃料を全部抜きます。

4. ストレーナーカップを取りつけます。

5. キャブレターの燃料ドレンビスをゆるめてキャブレター内の燃料を全部抜きます。

6. キャブレターの燃料ドレンビスを締めつけます。



⑦ 『9．点検・整備（5）スパークプラグの清掃と調整（P26)』に従って、スパークプラグをはずします。

⑧ プラグ穴からエンジンオイルを2～3cc注入します。

⑨ リコイルノブをゆっくり数回引きます。

⑩ スパークプラグを取りつけます。

⑪ 各部を清掃し、湿気・ホコリの少ない場所にカバーをかけて保管します。

11．故障時の対応

⚠ 注意：感電・けが

- 点検を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、冷えてから点検を行ってください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。
点検しても正常にならないときは、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申しつけてください。

症状	推定原因	処置
エンジンが始動しない	燃料コック『閉』	燃料コックを『開』にする
	燃料の不足	燃料を給油する
	燃料に水やゴミが混入	燃料タンク・燃料ストレーナーの水抜きと清掃
エンジンがすぐ停止する	オイルセンサー作動	エンジンオイルを給油する
エンジン出力が落ちた	エアクリーナーの目づまり	エアクリーナーの清掃
水を吸わない	吸水ストレーナーが水中に沈んでない	水タンクに水を補給
		吸水ストレーナーを沈める
	吸水ホースの接続がゆるい	増し締めする
	吸水ホースのパッキン脱落	パッキンを取りつける

症状	推定原因	処置
水を吸わない	吸水ホースの破損	吸水ホースを交換する
	吸込揚程が高すぎる	水タンクを上げる
		本機を下げる
	吸水ストレーナーの目づまり	ゴミを取り除く
	エア抜きバルブの故障	販売店で修理
	ポンプ吸吐バルブの固着·ゴミかみ込み	販売店で修理
圧力が上がらない	吸水ストレーナーの目づまり	ゴミを取り除く
	噴射ガン·ノズルチップの摩耗	ノズルチップを交換する
	吸水ホースの接続がゆるい	増し締めする
	吸水ホースのパッキン脱落	パッキンを取りつける
	吸水ホースの破損	吸水ホースを交換する
	ポンプのプランジャーやグランドパッキンに傷·摩耗	販売店で修理
	アンローダーバルブにゴミかみ込み·傷	販売店で修理
	エア抜きバルブの故障	販売店で修理
	圧力計の故障	販売店で修理

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6181

やまびこ産業機械株式会社
〒731-3167　広島市安佐南区大塚西6-2-11　　Tel 082-849-2005（代）

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

22871-94310

(C) 2013 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。